

# 市民と歩む議員の会

## 議会報告 いけぶち佐知子



発行：「市民と歩む議員の会」 〒564-0041 吹田市泉町1-3-40（市議会内） TEL：06-6384-1390（会派控室） 2020.10 No.63 【通巻134】

### ■ コロナ禍での議会開催。限られた時間を有効に

5月定例会以降、毎月臨時会が開催され、9月定例会を迎えました。いずれの議会も執行部、とくに保健所担当のコロナ対応に配慮するため、本会議質問時間や委員会開催日数の短縮が行われました。

議員にとって質問や質疑の時間を削られることはとてもつらいことです。特に行政のコロナ対応が適切なのか、市民ニーズに対応できているか、などチェックし、議員として議会として提案しなければならぬこともあります。とはいえ、議会運営委員会で取り決めたことを守らないわけにもいかず、事前に調べられることはいつも以上に時間をかけて調べ、必要最小限の質問・質疑をしました。

その中から抜粋して、議会の動きとともに、ご報告いたします。



### ■ 一般会計補正予算（第11号）討論（いけぶち） ■ 重度障がい者医療費助成の条例 討論（馬場）

#### ○ 留守家庭児童育成室の民間委託

保護者説明会での新型コロナウイルス感染拡大等に対する懸念があり、保護者や地域団体から請願や陳情が提出されている。

保護者には拒否していたリモート説明会開催など、本会議や委員会質疑に対して、感染リスクを最小限にして行う旨の答弁があった。初めから柔軟な姿勢であれば、請願まで至らなかつたのではないか。

市は指導員不足を解消し、早期に待機児童を解消するため、民間委託は先延ばしできないとのことであるが、**感染拡大リスクが高まった際には民間委託を延期**することも含め対応していただきたい。

#### ○ 地域外来・検査センター、検体回収センター

検体回収センター設置は、総合福祉会館と休日急病診療所の2か所とのことである。**検体持参の利便性**を考え、その他の施設や駐車場等へのプレハブやテントの設置も検討すべきであった。

患者が持参できないとき家族など代理人持参も要相談とのことであるが、一人暮らしの方もいる。厚生労働省が認め、他の自治体でも実施している**ゆうパックでの検体送付**も検討していただきたい。

PCR検査を行う2か所の地域外来・検査センター設置に加え、**市内12の医療機関**と行政検査の委託契約を結んでいる。委託先の増加に向け取り組むよう要望する。さらに、検体回収拠点としての機能をできる限り多くの医療機関にお願いすることも検討していただきたい。

精神病床入院患者の60%近くが1年以上の入院となっており、経済的不安が懸念されてきたことから、大阪府の福祉医療費助成制度の再構築に伴い、**精神病床入院を助成対象に加えることは、歓迎**する。

ただし見直し理由の「精神障がい者の地域移行が一定進んでいる」については疑問である。確かに、大阪府の資料によれば、平均在院日数、在院期間、入院期間1年以上患者数は改善傾向にある。

しかし、他の研究者の調査では、精神病床からの退院者の1年以内の再入院率は約40%、包括的支援が必要とされた精神障がい者のうち退院後に地域サービスを利用していたのは約33%であり、地域移行・地域定着が順調に進んでいるとは言えない。

委員会質疑では、吹田市として市内精神障がい者の入退院の実態を把握しておらず、施策展開も府の決定に追従しているだけと分かった。

**地域生活支援体制の充実**、適切な地域サービスを提供することが地域移行を成功させるポイントになる。まず、市内精神障がい者が置かれている現状の把握、地域サービスの利用促進に向け努力し、国のスキームに問題がある場合は、市の単独事業も検討するなど、**精神障がい者の地域移行**へのさらなる**積極的な支援**を求めます。

議会報告をお入用の方は、お名前、送付先などお知らせください。（P4をご覧ください）

### インフルエンザ流行に備える

8月18日付厚生労働省事務連絡では「新型コロナウイルス感染症の行政検査（検査料無料）の対象者には、濃厚接触者でなくても、クラスター連鎖が生じやすいと認められる場合、その地域や集団、組織の人も該当する」とのことです。

9月4日厚生労働大臣記者会見では「インフルエンザ流行期には、発熱等の症状があれば確実に医療機関を受診できるよう、身近な医療機関に直接、電話相談、地域の診療・検査医療機関を受診する仕組みに変える」と発言があり、その後、厚生労働省事務連絡が出されました。

#### 質問

濃厚接触者でなくても行政検査対象と判断されれば、吹田市で検査できる体制となっているのか。対応可能な検査能力（検査数）になっているのか。

#### 健康医療部長

保健所では、これまでもクラスター化する恐れがある場合には、濃厚接触者に該当されない方でも必要に応じて検査をしてきた。

9月定例会提案の地域外来・検査センター及び検体回収センター設置に関する予算は、吹田市内の検査数の増加を1日最大82件まで想定している。検査対象が想定を超えないよう、クラスター発生予防に向けた取組も引き続き努める。

#### 質問

次のインフルエンザ流行に備え、大阪府と吹田市、また医療機関と吹田市の間で、どのような協議が行われているのか。

#### 健康医療部長

保健所は大阪府との連携を図りながら、発熱患者への対応や検体採取への協力などについて、市内医療機関や吹田市医師会等との協議の機会を設定するよう準備を進めている。

### コロナ禍での3つの密を避ける取組の現状は？

#### 質問

- 1) マイナンバーカード申請交付窓口が、連日とても混雑している。密集密接解消策はあるのか。
- 2) プレミアム付商品券の販売時にも窓口が混雑することが予想される。どのような対策をとるのか。
- 3) 保育所入所申し込み時にも、赤ちゃん連れの方がたくさん市役所に来られている。どんな対策をとるのか。

#### 1) 市民部長 2) 都市魅力部長 3) 児童部長

1) 椅子の間隔をあけて順番を待っていただいているが、申請受付や交付件数が大幅に増えてきているため、受付時間の延長、窓口数の増設に向け、庁内で協議している。

2) 平日は、市役所本庁舎に加え、千里ニュータウンプラザ、市内郵便局、吹田市商業団体連合会加盟商店街で販売場所を設置する。平日以外の本市直営販売所は、販売窓口数を増加する予定である。

3) LINEを使った窓口予約システムを昨年度から導入し、平均75分の待ち時間だったものが導入後平均15分以内になった。2021（令和3）年度の申し込みは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべて郵送受付にする。相談を希望される保護者には、窓口予約システムによる完全予約制にし、混雑解消を図りつつ対応している。

### Withコロナの時代 新しい生活様式、働き方

#### 質問

1) 新しい生活様式に向け、市役所に来られなくても行政手続きができるようなオンライン化はどうなっているか。

2) 集団感染予防策として、庁舎内での職員の働き方はどのようにしているのか。

#### 1) 行政経営部長 2) 総務部長

1) 感染リスクを減らしつつ、市民サービスを維持し、行政運営を継続するため、業務プロセスの改善に取り組んでいる。（例）電子申込システムを利用した各種の簡易な申込みの電子化やコンビニエンスストアなどでの証明書交付サービスを進めている。

2) 在宅勤務、勤務日の変更、特別休暇の取得推進、時差出勤の促進、会議室の利用、窓口への飛沫防止パネルの設置、ウェブ会議の促進、体温の確認、マスクの着用、地下食堂の座席の間引きや飛沫防止パネルの設置、時間差利用など、現在も継続して取り組んでいる。

ウェブ会議システムの利用可能な会議でウェブ会議を実施してきた。課題を整理し、来年度にはネットワーク会議システムを本格導入することを目指し、検討中である。

#### コメント

議会でもオンライン委員会の実施を検討中であり、行政とも情報交換しながら、ともに実現させていきたいです。

### フレックスタイム制度の導入は？

#### 質問

withコロナ（コロナとともに）の下、標準的な働き方に加え、業務や職員自身の状況に応じて勤務時間を変えることができれば、子育てや介護、障がいや病気をもちながらも働き続けることができるのではないか。どのように考えているか。

#### 総務部長

職員自身の事情により自由に始業・終業時間を決定できるフレックスタイム制度は、国家公務員は可能であるが、「地方公務員法」の規定により地方自治体への導入はできない。

吹田市では、業務上の必要に応じて、時差出勤制度を導入しており、さらに時間区分を増やし運用している。

職員アンケート調査を実施し、子育てなどの職員の個別事情への対応や始業時間の区分の拡充について検討していきたい。

#### コメント

ある自治体が、全国初の完全フレックスタイム制度を導入したと昨年のニュースにあったので、自治体でもできるようになったのかと質問しました。しかし、地方公務員は自分の裁量で始業・終業時間を決めることができず、必ず上司の許可が必要とのこと。どんなウルトラCで、ある自治体はクリアしているのか、不思議です。

### 疲れるバイコレーター（自転車搬送コンベアー）

JR吹田駅の北側と南側を結ぶ地下道への階段にバイコレーターがようやく設置されました。とても喜ばれていると思いましたが、既存のスロープのところに設置されたので約10センチ高くなり、小柄な人が自転車を支えながら階段を上るのはとても疲れるという声を聴いています。

#### 質問

10センチ高くなるということは、わかっていたと思うが、どのように対応しようと考えていたのか。今からできることとして、階段の踏面（ふみづら）を10センチかさ上げすることはできないのか。

#### 土木部長

計画当初から埋め込み型にするか据え置き型にするか検討してきた。埋め込むためにはスロープのコンクリートを撤去する必要がある。地下道ボックスそのものへの影響や工期が長期間にわたることから施工困難と判断し、据え置き型を採用した。10センチ高くなるが、コンベアーにより自転車を押し上げる力が大幅に軽減されることによる事業効果は十分あると考えている。

#### コメント

7月6日の供用開始から1か月間は、数十件の様々な意見があったが、それ以降、特に意見はなく、利用者が順応してこられたとの答弁もありました。順応された方もいるでしょうが、意見を言っても何も変わらないと思ってしまうのではないかと、コメントしました。「今後も市民の意見に耳を傾けていく」との部長の言葉を忘れません。

### 千里山地区等公共交通（乗り合いバス）の導入

千里山や春日地区の皆さんには待ちに待った公共交通の導入です。会議録を見ると、本当に通ってほしい道路であっても、数センチ道路幅が狭いため想定しているバス車両では通れないとのこと。地域住民の意見をお聞きし、可能な限り対応することが、利用者数の増加にもつながります。

#### 質問

1) 新型コロナウイルスの影響で、住民説明会の開催が遅れているようだが、当初予定通りの回数で開催するのか。

2) バス停の位置やバス停の名称には、住民や利用者の意見は反映されるのか。

#### 土木部長

1) 当初8月から住民説明会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響と関係機関との協議に時間がかかり、遅れている。年内には千二地区、千三地区、千里新田地区を対象に各2回、合計6回の説明会を開催する。

2) 現在、計画しているバス停位置での試験運行を行い、その中で新たなバス停設置については、地域公共交通会議に報告し、関係機関と課題解決に向けた協議、検討を行いたい。バス停の名称について、住民説明会でも意見をいただき、今後、協議、検討していきたい。

### メイシアターのリニューアル バリアフリーは不十分

障がい者団体の方々から、リニューアル後のメイシアターのバリアフリーについて意見をいただきました。

#### 質問

- 1) 観客席に介助者スペースを設けなかったのはなぜか。
- 2) 道路からメイシアターまでの最短ルートに点字ブロックを敷設しなかったのはなぜか。

#### 1) 都市魅力部長 2) 土木部長

1) 固定的に介助者用専用スペースを設けるよりも、車椅子席を希望する方にニーズを聞き、希望する場合に介助者用の椅子を設置するほうがきめ細やかな対応ができ、スペースの有効活用が可能であると考えた。

2) 点字ブロックはメイシアター入口へのアクセス誘導のために敷設しているが、いずみの園公園でのイベント等の利用を考えると、最短ルートでは公園利用者の動線と交錯し、安全が確保されない恐れがあると判断した。

#### コメント

今後も、障がい当事者の方からの意見を聴き、可能なことを検討し実施したいとのことでした。「ハード面でできないことはソフト面で対応を！！」今後に期待しています。

7月臨時会の報告

補正予算(第8号) 議案質疑(いけぶち)

- ① 国の二次補正予算を受けて5月定例会に上程せず、7月臨時会になった経緯と理由は何か。
- ② 6千万円を予備費に追加する提案について、今後の予定や予備費として確保しておく目標額はあるのか。

答 弁(行政経営部長)

- ① 予算の積算根拠となる国や大阪府の方向性が6月下旬以降に示され、5月定例会には間に合わなかった。
- ② 不測の事態への備えとして当初予算で5千万円を計上していたが、4月中旬に約3千万円を保健所の感染症対策にあてた。今後は5千万円では不十分と判断し、1億円を予備費予算額として確保することにした。5月定例会後、避難所での感染症予防のために約5千7百万円を使い、残りが約4千8百万円となったため、今回6千万円の増額をすることにした。

その他予算案の概要

【1】妊娠・出産包括支援事業

- ① 希望する妊婦に対し、**出産前のPCR検査費用を助成**し、かかりつけ産科医療機関等でPCR検査を行う。
- ② 新型コロナウイルスに**感染した妊産婦へ退院後の支援**を行う。(訪問支援を4回、35人を想定)

【2】教育活動支援事業

- ① 学級担任の補助などを行う**学習支援員**を市立小・中学校に配置する。会計年度任用職員として**89名採用予定**。
- ② 小・中学校管理事業の感染リスクを最小限にするための設備整備や物品購入。学校から家庭への連絡体制強化のための物品購入などにかかる費用。
- ③ 市立小・中学校通常学級数の約半数相当の451台の教職員用端末をモバイルルーターに接続するための設定費用及び使用料。

以上の項目につき質疑し、全会一致で可決しました。

8月臨時会の報告

補正予算(第9号) 賛成討論(いそがわ)

【1】プレミアム付き商品券事業

対象は住民基本台帳に記載されている全世帯とのこと。コロナ禍によって厳しい生活になっている世帯や、特別定額給付金の対象にならなかった基準日以降に生まれた新生児のいる世帯に重点的に販売す

る提案ではない。

【2】小中学校の消毒作業のサポートスタッフ

消毒についての**正しい知識を習得し、作業マニュアル等を作成し作業を行い、スタッフ自身の感染予防策も徹底**することを求める。

【3】教員と児童等の双方向の通信環境整備

通信費が行政負担となる家庭と自己負担になる家庭があり、**平等性に欠ける**。学校一斉休業などの非常時にのみモバイルルーターと端末のセット貸し出しを行うとのことであるが、非常時にスムーズに対応できるよう、**日ごろから活用**することを求める。

9月定例会 議員報酬削減条例案に反対

議員報酬の2割削減の特例条例の期限が10月で終わることに対して、来年3月まで2割削減を続ける内容の条例提案が5人の議員からありました。提案説明を簡単にしたのち、提案者として署名している議員が賛成討論をしました。

提案者なので、討論ではなく提案説明のときに理由を述べればいいのに、と思いましたが……。討論の要点は(いけぶちの記憶)「5月に2割削減条例を可決した時と変わらず、今も新型コロナウイルス感染は収束していない」「10月で前の条例が失効すれば25%の報酬増となる」でした。

市民と歩む議員の会として3人の議員で議論した結果、反対しました。反対するときは基本的にその理由を述べるためにも討論をすることにしていますが、討論は反対、賛成の順に行います。提案者が賛成討論をすると聞いていましたので、反対討論はやめました。

なお、5月に2割削減条例案に対して会派内で協議し、**1割を今年度中1年間**でもよいけれど、同額であれば早く予算を削減するほうがいだろうと考え、**2割6か月削減に賛成**しました。5月のときは、各会派間で議論を重ねましたが、今回は、会派間の協議もありませんでした。

また、10月に削減条例が失効すれば、削減前の本則に戻るだけであり、**本則の議員報酬の額は変わりません**。

議会報告を送付ご希望の方は  
FAX(06-4861-7418)にて  
お名前、送付先をお知らせください。



しっかり市民派  
ずっと無党派

「市民が主役」の  
住み続けたいなる  
まちを創りましょう!



「市民と歩む議員の会」  
いけぶち佐知子  
いそがわゆか  
馬場慶次郎

TEL:06-6384-1390  
TEL:06-4861-7418  
TEL:06-4864-2874  
TEL:06-6389-8555

facebook.com/shimin10ayumu/  
Mail:info@ikebuchi-sachiko.net  
Mail:510yuka.suita@gmail.com  
Mail:info@baba-keijiro.com

